

フロアボールで世界に挑戦

香田優一選手がフロアボール世界選手権への出場報告

フロアボール日本代表選手香田優一さんが11月16日に役場町長室を訪れ、12月にチエコで開催される世界選手権への出場に向けて意気込みを語りました。

道内からの選出は香田さんが初めてとなり、代表選手全20人の中で最年長。
香田さんは「競技が盛んな北欧を中心に海外には強豪が多い。決勝トーナメント進出に向けて精一杯頑張りたい」と話され、浜田正利町長は「けがに注意し思う存分実力を発揮してほしい。検討を祈り、吉報を待っています」と激励しました。



左から浜田町長、香田さん、児玉亮さん（新得フロアボール協会会長）

スキークロスで夢のオリンピックへ

スキークロスの平川紗知選手がヨーロッパカップへの出場報告

12月から2月にかけて開催されるヨーロッパカップのスキークロス競技に出場する平川紗知さんが、11月22日に役場町長室を訪れ、意気込みを語りました。
平川さんはワールドカップへの出場経験もあるスキークロスの国内トップ選手で、「大会の成績次第ではワールドカップへの出場も可能。夢はその上のオリンピック」と大会で道を切り開きたい」と浜田正利町長に抱負を語りました。



浜田町長に抱擁を語った平川さん（右）

※スキークロスとは、フリースタイルスキー競技の一つで、4人が同時にスタートし障害物が続く全長約1kmのコースを滑走する競技

飾り巻き寿司で講座の卒業を飾る

からだにやさしい食生活講座が全7回を終了

町保健福祉課が主催する、からだにやさしい食生活講座の最終講座が11月21日、町保健福祉センターで開かれ、38人が参加しました。

この日は、極楽寿司の桑添達也さんと妻の野の子さんによる飾り巻き寿司講習が開かれ、参加者は梅の花と四海巻き寿司の作り方を学びました。

この講座は全7回にわたって健康的でバランスの良い食生活を学ぶもので、参加した方は町の食育ボランティアとして活動することが出来ます。



参加者に作り方のアドバイスをする桑添達也さん（中央）

外国人観光客を快く迎えるために

平成30年度外国人観光客受入研修会

平成30年度外国人観光客受入研修会が11月27日、公民館で行われ町内観光事業者ら24人が参加しました。

凸版印刷株式会社ビジネスイノベーション推進部の榎谷穂部長、株式会社ゼロ・プランニングの増井浄美代表取締役、NPO法人ワールド・ユース・ジャパンのデヴィット・バーネット理事、全国通訳案内士の岩崎修子さんが講師を務め、外国人観光客の現状や、現場での対応方法を学びました。

研修会に参加した屈足で民宿を営む根本和也さんは「実際に外国の方を受け入れるときと同様の実践的な内容でためになる研修だった」と話しました。



ネイティブスタッフとのコミュニケーション演習を行う参加者

広報モニターからの声

広報モニターさんから「広報しんとく11月号」を読んだ感想・ご意見をいただきましたので、その内容をお知らせします。

▼特集記事について
・2つの違いがとも分かった。読みやすかった。課題も載っていて良かったと思います。

・今後の効率やコストを考えると集約するのがベストで、すでに広域化された消防関連も含め、新得町単体ではなく十勝全体で物事を考えていかなければならないと感じます。
・単独処理方式と広域処理方式の違い、メリットがよく分かりました。逆にデメリットはなんですか。課題として挙げられていた「事業系」の処理にかかると町内事業者の負担増でしょうか。メリット・デメリットが並べられていた方が町民にとっては分かりやすいかもしれません。

・日々のごみの量の多さに自分のことながらうんざりします。何を買っても紙やプラスチック、燃えないごみとなる包装がついてきます。地産地消をしやすい地方の生活でもっと生活に工夫できないか、地方ならではのアイデアを

形にしたいです。
・「ゴミの処理については分かりましたが、ゴミを減らすための町独自の取り組みはできないでしょうか。また、このごろ問題になっているマイクロプラスチックのことですが、町で回収されているプラスチックごみがどこに搬送され、どう処理されているか気になります。

お答えします

回収したプラスチック製包装容器などのリサイクルごみは、町リサイクルセンターで汚れているものや他のごみが混ざっていないかを選別し、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会が委託する再商品化事業者に引き渡します。再商品化事業者はリサイクルごみをベレット化し、土木建築用資材や園芸農業用資材の原料として利用します。なお、リサイクルごみの品質等に配慮して、公益財団法人日本容器包装リサイクル協会から「再商品化合理化拠出金」が町に支払われます。

（町民課生活環境係）

▼その他の記事について
・いじめ・ネットトラブル根絶！メッセージコンクルの表彰について
インターネットは社会のアンダーグラウンドな部分にもつながっ

ているため、子どもには危険な部分もありますが、現代社会において必須の技術であるため、大人も含め表面的な事柄だけではなく、扱うことの有効性やリスクをしっかりりと踏まえて話し合っていくべきだと思います。

・高規格救急車の運用について
十勝は広域で気候変動による交通障害などいざというときの備えが大切になります。緊急時、町民にとって最後の手段が救急車になりますので、こういった設備強化は安心につながると思います。

・町議会広報広聴常任委員会と中学生との意見交換について

町づくりに関心をもつ若者が増えていくよう、こうした取り組みは定期的に実施すると良いと感じました。そして、出された意見はぜひ、町政に目に見える形で反映させ、子どもたちにフィードバックしてほしいと思います。「声が形になる」ことで子どもたちの町づくりにへの意欲や希望が育まれます。

▼11月号全体について

コンサートをはじめとする音楽関連の記事や駅伝といった、芸術の秋、スポーツの秋を象徴する記事が印象的でした。

手話講座

～No.51～

○良いお年を (1) (2)

①良い



握った右手拳を顔の前に構え、前に出す

②お年を (正月)



両手人差し指を左右から引き寄せて上下に置く (1月1日を表現)

今月号のモデルは、新得手話の会の名木橋麻衣さん（植村土建（株）勤務）です。